

# ふるさと 見て歩き

第84回

## 氷之沢鹿嶋神社

市内には多くの鹿嶋神社があります。このうち美和地域の氷之沢、下檜沢にある2社は、いずれも中世に開かれたという伝承をもち、佐竹氏の庇護下にあったという共通点があります。

今回はこのうち氷之沢鹿嶋神社についてご紹介します。



▲拝殿

氷之沢鹿嶋神社は常陸国一之宮鹿嶋神宮を勧請したもので、祭神は武甕槌命たけみかづちのみことです。社伝によれば、創立は南北朝時代の明德2年(1391)とされています。約120年後の永正11年(1514)に、佐竹16代の義舜よしきよによって再建されています。義舜は、部垂へたれの乱を起し同戦で討ち死にする部垂(宇留野)義元の父にあたる人物です。

永正11年の神社再建については、氷之沢の北隣に位置する下檜沢の鹿嶋神社についても同じことが伝えられています。2社の距離は大変近く、2km程しか離れていません。

下檜沢には戦国期まで使用されたと推定される城館遺構があります。15世紀頃に下檜沢城を領していた地元の豪族小室氏は、佐竹氏の内乱である山入一揆やまいりで佐竹本家方につき、敵対する山入側を討伐するため戦ったといわれています。

このようなことから佐竹本家の庇護を受けることになったと推定されます。

江戸時代になり、水戸藩領になると、2代藩主光圀は領内巡視を盛んに行い、寺社を整理するとともに寄進や改修も積極的に行いました。

元禄8年(1695)の巡視の際に氷之沢鹿嶋神社を訪れた光圀は、当時の村名「檜野澤ひのさわ」を現在の「氷之沢」に改めるよう当時の武茂組の郡奉行である林十左衛門に命じました。以来、当地は「氷之沢」という地名になったのです。

光圀が、地名を変えた理由は明らかではありません。

氷之沢鹿嶋神社にはこの経緯について記された木札が伝わっています。



▲木札

〔翻刻〕  
當村元名檜野澤元禄八年乙亥九月十七日  
西山源大君遊獵之節改名號氷之澤即命原文ママ臣石井彌五  
兵衛收傳事於庄屋岡崎長衛門守定守定告之于郡  
奉行林十左衛門正興代宦打越瀬左衛門政徳事既  
定終書此鎮守鹿嶋大明神廣可以傳後

氷之沢鹿嶋神社は、創建当初は八幡社でしたが、元禄4年に光圀により鹿嶋神社に改められ、神鏡が奉納されたと伝えられています。

いくつかの共通点が見られる下檜沢鹿嶋神社も、佐竹氏により庇護されていた当時は十二所神社でしたが、元禄4年に光圀により鹿嶋神社に改められ、神鏡が奉納されています。

両鹿嶋社は創建以来、ほぼ同じ道をたどり現在に至る、大変つながりの深い神社です。

同社の本殿(市指定文化財)は元文元年(1736)に建てられました。市内では貴重な江戸中期の建築です。



◀本殿

歴史民俗資料館大宮館 ☎52-1450